

## コメントC：秋吉英理子（高校の立場から）

### 他教科における言語活動 - 都立国際高等学校 -

秋吉 都立国際高校の秋吉でございます。よろしくお願ひいたします。大変興味深くお話を伺っておりますが、3点についてお話ししたいと思います。

始めに、他教科における言語活動ということです。高校では、国語よりもむしろ他の教科で発表授業が多いように思います。自分で調べたことを発表するという授業が私どもの学校では特に多く取り入れられているようです。あるいは、レポートを書かせるという機会が非常に多く見うけられます。中には要領のいい生徒もいて、同じレポートをいくつかの科目に出すところもあるようですが、試験の問題でも定期考査でも、地歴ですとか、理科の方が国語科よりも書かせる文章の量が多いということがあり、国語科としては反省しております。私どもの高校では2・3学年に、課題研究が必修として置かれておまして、全校の教員一人当たり、だいたい2・3年生をそれぞれ5名ずつ全部で10名程度の生徒を担当して1年間かけて指導をしております。数学科が担当する場合ですとか、理科が担当する場合、国語科以上に本当に容赦ない指導で、本格的な論文を要求する場合があります。国語だとこれぐらいできていけばいいかな、と少し妥協する点もあるのですが、そうではない本格的な論文指導をしている姿などを目の当たりにしまして、やはり他教科においてもことばの教育、あるいは論文の書き方の指導はかなり期待できるのではないかと思います。どのような生徒の指導にあたるかはわからないのですが、目次を作らせるですとか、構成をきちんと立てさせるところまでが一苦労だなという気がしております。そういうことから見ますと、言いたいことはたくさんあるのだけれども、それを人に分かりやすく書くという訓練が今、欠けているのではないかと思います。

### 国語科の役割

その次に、国語科の役割というのはどういうものなのかということです。いろいろな教科にも共通するものがありますけれども、基盤としての国語科の担うべき役割は何かをまた考え直さなければいけないのではないかと思います。発表の仕方ですとか、文章表現そのものについてみますと、やはり稚拙な点が多かったり、誤字脱字、それから文章の構造が悪かったりしますので、基本的な訓練は国語科が担う必要があると痛感しております。また、ことばを扱う教科である外国語科との連携がまだ今一つうまくできていないところが私どもの方ではあるのですが、やはり学習指導要領などを検討したりする面でもっとお互いに密接な関係があるという意識を持つことが必要ではないかと考えます。また、国語科自身のことを考えましても、先ほど文章題ということを申し上げましたが、試験のあり方というのも、あるいは入試問題のあり方というのも大きく子どもたちに影響しているという気がします。選択肢の問題には今子どもたちというのは、子どもの頃から随分慣れているようで、私などよりずっと要領良くやっていくのですけれども、記述式の問題を出して本当に厳しく国語的にチェックをしていきますと、出された課題に合わない答えを

平気で書いてくる。語尾を少し注意をすればいいのに、それをしない、ということもありまして、やはり入試や考査の問題の作り方というのもまた一層考えていかなければならぬのではないかと思います。前にドイツ人の先生にドイツでの高校の試験はどのようなものですか、と伺いましたら、国語の試験は一日あるいは二日掛かりで3つぐらいの題について奮闘して書くのだ、選択肢から選ぶなどというのは信じられないというふうなお答えがありまして、是非いろいろな外国の様子なども知りたいなと思いました。

### 他教科の教科書における漢字の提示

それから次の、他教科の教科書における漢字の提示ですが、これは小学校で大きな問題になっているというお話でしたが、私どもの方で受け入れている外国人生徒ですとか、現地校出身の生徒、第一言語が日本語以外の言語である帰国生徒の場合にも当てはまるな、と思いました。耳では随分ことばを知っているのですが、漢字になるとまるでわからないという生徒が大変多いので、ルビの問題は国語・日本語教育の検討課題であると思われる。

それから、最後に3番目ですが、音声言語教育でオーストリアやイギリスのように演劇や音読といった声に出す教育というのをもう少し日本では取り入れてもいいかなと興味深く思いました。日本語を使う喜びというか、声に出して話す喜びをもっと体験させたいと思いますし、またメモを取りながら聴く、上手に聞くという指導を積極的に取り入れていけたらいいなというふうに思っております。以上です。

**甲斐ユ** どうもありがとうございました。それでは、次は教育行政の立場から相澤さん、よろしく願いいたします。